

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(1)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

手持ちのモーツアルトのアナログ盤については、アナログプレイヤー3機種と比較という意味で、[アナログプレイヤーの比較試聴シリーズ](#)で報告してきました。

今回、[ターンテーブルアキュライザーの導入\(9\)](#)で報告しましたように、F氏から多くのモーツアルトのアナログ盤を譲り受けました。



一方アナログシステムについては、[アナログプレイヤーの比較試聴シリーズ](#)や[ターンテーブルアキュライザーの導入シリーズ](#)と[ターンテーブルアキュライザーの活用シリーズ](#)、および[ダンパーフレークの導入シリーズ](#)で報告してきましたように、ターンテーブルアキュライザーとダンパーフレークの追加による音質改善を図ってきました。

さらに、[仮想アース Crystal E の導入\(7\)](#)で報告しましたように仮想アース Crystal E の追加や[ターンテーブルアキュライザーの活用\(10\)](#)で報告しましたように ThorensTD124 に TEAC の和紙のターンテーブルシートの導入も行ってきました。従って、これらの総合評価を行うとともに、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を集中的に試聴していくことにしました。

試聴システムは、LINN LP-12 を中心に、ThorensTD124 や Garad401 を適宜追加していきます。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、まずは、弦楽四重奏から始めます。

Eurodisc(日本コロンビア) OP-7291-K

モーツァルト 弦楽四重奏曲第 14 番ト長調

弦楽四重奏曲第 15 番ニ短調

ベルリン弦楽四重奏団

3. モーツァルトのアナログ盤の試聴結果

Eurodisc 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。**LINN LP-12** の再生では、これまでベルリン弦楽四重奏団による **Eurodisc** 盤は、とにかくクリーンではあるものの、スタティックな印象がついてまわっていましたが、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレー、**Crystal E** などの導入により、ディテールの再現性が向上し、そよ風のようなソフトな演奏でありながらも中低域もしっかり前が出るようになりました。

ThorenTD124 の再生では、**LINN LP-12** の再生と同様、生き生きとした演奏を聴かせてくれ、**SPU** のカートリッジとは思えないほど、透明度が高く、中庸でクリーンなイメージも出てきました。

4. まとめ

ベルリン弦楽四重奏団によるモーツァルトの弦楽四重奏曲の **Eurodisc** 盤が、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、**Crystal E** の導入および **ThorenTD124** のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、従来のイメージから脱却した再生レベルに達していることが分りました。

以上